

大堂閻魔王坐像(だいどう えんまおうざぞう)

板橋区登録有形文化財(歴史資料・彫刻) 平成5年3月24日登録

当像は、木造の寄木造り、像高79.2cmの閻魔王です。冠をかぶり、右手に笏しやくを持ち、左手は膝に置いて安座し憤怒の相を表しています。面部の彫りには力強さが見られ、胸や太い両腕など体軀も堂々としています。表面の彩色は塗り直されていますが、造立当初の作風をよく残しています。

像の底部と像内には墨書銘ぼくしょめいがあり、ここから当像は延宝9年(1681)、下赤塚村名主の春日伊兵衛が施主となり、京仏師西田清兵衛により造立され大堂に奉納されたことが分かります。

なお、施主の春日伊兵衛は閻魔坐像のほか、六地藏ろくめんどうが陽刻されている六面幢ちようづてみずはちや手水鉢を大堂や赤塚地域の寺社に寄進しています。これら多くの寄進物は赤塚地域の社会状況や文化的な広がりを物語っています。

現在、閻魔王坐像は松月院の寺宝館「松宝閣」に保存・展示されています。



所在地:板橋区赤塚8-4-9 松月院 松宝閣

交通:東武東上線「下赤塚駅」徒歩18分

国際興業バス「赤塚八丁目」徒歩2分

〔成増駅北口・赤羽駅西口⇄高島平操車場(下赤03・赤02・赤02-2)〕

板橋区コミュニティバス「赤塚庁舎入口」徒歩2分